

学校教育目標		目指す子どもの姿(中・長期的目標)		総合評価		
よく気づき よく考え よく働き 進んで学ぶ子ども		1 自分で気づき 自分で考え 進んで学ぶ子ども(自主性) 2 よく働き 最後までやりぬく子ども(意志力) 3 手足を動かし 進んで体を鍛え 頭を働かせ 豊かに感じとれる子ども(豊かな情操) 4 一人一人のよさを認め 助け合える子ども(共生) 5 安全に気づき 進んで身体をきたえる子ども(健康安全)		今年度も、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた1年間だった。予定していた行事が中止になったり、実施できても内容の変更や縮小をしたりした。授業でも互いに学び合うペアやグループ学習も難しかった。運動や遊びも、思い切り行うことができないことが多かった。そのような状況下で、児童も教職員も「何ができるか」「どうすればできるか」を意識した一年間でもあった。知「学習」・徳「心情」・体「体力」で昨年度よりも前進できたことは事実である。来年度は、児童も保護者も教職員も「早く行きたい(行かせたい)」「明日が待ち遠しい」学校づくりを目指していきたい。		
今年度の重点目標		評価	成果と課題 改善策・向上策			
【なるほど！そういうことか！】 学力向上の基盤をつくる(知)		B	一人一言端末の効果的な活用が、各学級で進んだ。来年度は、学力向上につながる情報端末の活用方法を考えていきたい。			
【聴こう みがこう 心と言葉】 豊かな心を育てる(徳)		B	互いの良さを認め合える学級集団に育ちつつある。良い姿や見本となる言動を積極的に周りに広めることで、全体をレベルアップしていききたい。			
【身体みがきで伸ばすぞ体力】 健康な体を育む(体)		B	通年、コロナ禍のため、運動や遊びに制限をかけなければならなかった。来年度は体力向上に向けた体育の授業の充実や運動遊びを工夫し			
評価【 A:達成できた B:おおむね達成できた C:やや達成できなかった D:達成できなかった 】						
領域	対象	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策・向上策
教育課程・学習指導	教育	1 聴く・伝える	・子どもたちが興味関心を持ち、聴こうとする学習提示があったか。 ・話し合いの時間が確保され、友の意見に耳を傾け、自己の考えをさらに深められる機会となっていたか。 ・自分の考えを相手にわかるように伝えようするため、具体的にわかりやすい伝え方の指導をしたか。	B	・デジタル教科書を有効利用し、興味関心を持ちやすい学習提示をすることができた。 ・感染拡大に気を付けながら、小グループでの話し合いの機会を積極的に仕組み、互いの考えを深めることに役立てることができた。また、学習用端末を利用しての活動は、瞬時に互いの意見を共有することに役立てることができた。 ・各学年の国語の授業単元の中で、伝え方の指導を行い、他の場面でも応用するように指導することができた。	・まだまだ、個々の子によっては、様子が異なるので、全児童が関心を持って、聴こうとする態度を養っていきたい。 ・小グループによる話し合いが大変有効である。さらに、学年が上がるにつれて、話し合いの観点を示し、向上させていきたい。 ・伝え方の基本フォームが、大変有効である。可能な限り多くの場面で、フォームを利用し、定着を図りたい。
		2 基礎基本の確実な習得	・学習のねらいを明確にするため、わかったこと、できたことを振り返る時間が位置づけられていたか。 ・ドリルの時間の内容が基礎的事項の定着につながったか。 ・1時間の中に、書くことを位置づけたことで、自分の考えが明確になっていったか。	B	・算数では、授業の最後にスキルを身につける時間を設け、自分自身で学べたかどうかの評価ができるように工夫することができた。 ・ノートに書くことが苦手な子ども、タイピングを覚え、学習用端末を利用すると、文章での表現が豊かになってきている。	・算数の基礎基本の定着には根気強さが必要である。宿題を頼りにせずに、授業時間内に定着を図れるような授業システムを確立していく必要がある。 ・「ノートに書く」ことが基本であるので、授業の中でノートに書く時間を確保し、抵抗を感じている子たちに書き方の指導を繰り返していくことが大切である。
		3 たくましい体づくり	・校庭や体育館で積極的に体を動かし遊ぶため、体を動かすことのよさを体感させる指導をしたか。	B	校庭での遊びの制限撤廃や、体育館の解放によって休み時間に外遊びをやボール遊びをする児童が多くなった。子どもたちの様子から、体を動かしたいという様子が見られた。全校体育などの定期的・持続的な体力向上の場が課題である。	体力向上旬間や、朝の会に運動の時間を毎朝取り入れることを通して体を動かす場を増やすことで、改善があると考えている。
		4 心を磨く清掃	・清掃の仕方の指導をし、定着しているか。 ・無言で行うことの価値を伝えたことで、無言で集中し、責任を持ってやり遂げようとしていたか。 ・自分の気づきが生かされた清掃とするため、自分の気づきを振り返る機会が保障されていたか。	B	・各学級で清掃の流れが確立しており、自主的に清掃をしている。 ・高学年を中心に、「黙って」「時間いっぱい」「すみずみまで」の清掃が定着している。 ・3学期は、6年生が第一中学校で行っている手ぬぐいをかぶつての清掃を取り入れ、気持ちを新たに取り組めた。	・主体的な清掃活動にするために、どこを磨けばさらに美しい学校になるのかを考えさせたい。 ・教職員も常に児童といっしょに清掃活動を行い、良い場面を短学活で取り上げていきたい。
生徒指導	生徒	1 響くあいさつ	・子どもたちが自分から挨拶をするように教師が率先して挨拶を投げかけたか。	B	朝の時間に、児童昇降口で迎え入れる際や昇降口付近を通るときには、教師が率先して挨拶している様子があった。自分から挨拶をする児童、教師の挨拶に挨拶を返す児童が「いる半面、何も言わずにそのままになっている児童もいる。 あいさつが、形の上の物になっている(ただ声を出している)ようにも感じる	すべての児童に話しかけるわけにはいかないが、挨拶一言や、挨拶をしない児童に対して「どうした？」などの声掛けをして寄り添うための挨拶になるようにしていきたい。
		2 人間関係作り	・人のつながりを友達関係のあり方を見つめ直す日々の学級指導、道徳教育ができていたか。 ・日常から子どもたちのよさをクラス全体に広めようとしたか。	B	道徳や人権教育を通して人とのつながりをさらに深めることができた半面、クラスの中で悪言や相手のことを考えない発言も多々みられた。良さを認めつつ改善を図ることをこれからもしていきたい。	個々に寄り添い、その思いを尊重しつつ、言っていること悪いことの判断や、発言の先に相手がいるということをしっかりと考えていきたい。そのために、クラス全体・個々に関わる時間をとれるように工夫していきたい。
学校運営	地域との連携	1 地域素材の教材化による学習の充実	・地域に出かけ、人との関わりが授業づくりに結びつけたか。 ・総合など地域学習を学年に一度は位置づけたか。	B	・感染警戒レベルの高い期間が長かったため、以前のように、地域の方と関わった学習を数多く実施することができなかった。2学期後半からは感染状況が落ち着いたので、低学年が学校近辺に出かけ、人・ものことと関わることはできた。	・来年度は、積極的に地域に足を運んだり、外部講師を招いたりして、地域の文化財を学ぶ機会を設けたい。
		2 キャリア教育	・地域の名人、達人を授業に招き、子どもたちが地域のよさ、人のすばらしさを感じたり、学んだりする機会となったか。 ・自分の生き方について考える素地ができたか。	B	・感染警戒レベルの高い期間が長かったため、地域の名人・達人と関わった学習は難しかったが、クラブ活動や生活科、総合的な学習の時間等で地域の名人・達人をお願いすることができた。名人や達人から、技を学ぶことができた。	・感染警戒レベルが高い場合も、地域の名人や達人とオンラインで交流する方法も検討していきたい。 ・名人や達人の生い立ちにも触れ、生き方も学んでいきたい。
		3 地域・PTAとの連携	・地域のボランティアの方々の力が学習に生かされたか。 ・学校便利、学年便利などを通して、保護者の学校への理解を深めようとしたか。	B	・コロナの感染警戒レベルが高い状況が続いていたため、地域のボランティアの方々との活動はできなかった。 ・週1回の学年だより、月1回以上の学校だよりを発行し、保護者の皆様に学校教育活動を紹介し、理解や協力を促すことができた。	・今後も、学校だより・学年学級だよりを発行し、学校教育の理解に努めていきたい。 ・来年度は、さらにPTAや地域の方々とのつながりを増やしていきたい。
	研修	1 子どもが自ら動き出す授業を目指す	・授業公開を通して、互いの授業を見合い授業改善に取り組んだか。 ・児童の発言を大事に、学習が深まる授業に取り組めたか。	B	・情報端末を効果的に活用する場面が増え、児童の興味関心が増す授業づくりができた。 ・児童と教師、児童と児童とのやり取りを大切にする授業を心がけた。	・教育課程研究協議会(総合的な学習の時間)や人権同和教育研修会に向けて、日々の授業づくりや教材開発を見直していきたい。 ・情報端末の活用についての研修も進めながら、子どもたちの良い学びに変えていく研修を計画していきたい。